



Subaru

男声合唱団 ニュース No514 '15. 8. 2

第2次世界大戦終結70周年記念特別企画

極東シベリアから旧「満州」合唱交流の旅 2015年7月16日～7月25日 (その1)

□(株)ユーラスツアーズが主催した今回の旅は、日本ユーラシア協会・日中友好協会・日本うたごえ全国協議会・ロシア民謡合唱団コスモス・男声合唱団「昴」・紫金草ネットワーク等の後援と協力のもと行われました。北海道札幌市から東京・千葉・神奈川・長野県上田市・大阪・奈良・京都・神戸等全国各地で、合唱活動や民主医療・ユーラシア協会や日中友好協会関係で活動しておられる方、また藤後団長はじめ参加される方々からお誘いを受けての旧来のご友人等多彩な顔ぶれの方々50名近くが参加されました。

藤後団長には今回の訪問団の代表として、当地の方々との折衝・挨拶・案内等大変お世話になりました。指揮者の本並先生、ピアニストの森二三さん、コンサートマスター相根さかゑさんとともに、大変体力の必要な旅でしたが、ロシアで3合唱団と中国で1つの合唱団と平和友好の合唱交流ができ、ハルビン・ハバロフスク・ウラジオストク・・・等の都市を訪問し、楽しくも中味の重い貴重な体験旅行ができました。皆さん無事帰国できて何よりです。なお「昴」よりの参加者は相根さん(ご夫妻)、清水さん、土井さん、吉川(夫婦)でした。

スケジュールと訪問都市・主な出来事

1日目：7月16日(木) 関空より仁川空港経由で哈爾濱(ハルビン)へ

関空発9：20 仁川空港経由 ハルビン空港 13：30 着、着後2台のバスにて、ハルビン市内観光。松花江、聖ソフィア教会、731部隊跡の建物・設備等(記念館として現在工事中。本部は外観のみ、南門衛兵所外観、航空隊官舎跡、動力班のボイラー跡、細菌兵器や実験動物の搬入、遺体搬送、そして敗戦が決まって真っ先に逃走した列車線路等)見学しました。ハルビン：黒竜江崑崙大酒店に宿泊



「悪魔の飽食」の本拠地「731部隊」跡地



細菌兵器を空からまき散らした731航空部隊官舎跡



厳寒の冬に宿舍等のすべてを暖房したボイラーの説明書



全館を暖房したボイラー跡



外と繋がり多面的な利用をした鉄道列車線路



鉄道線路跡の説明板

2日目：7月17日(金) ハルビンよりハバロフスクへ 現地の若き混声合唱団とレッスン合唱交流 ハバロフスク在住の田中猛さんと交歓夕食会

朝食後バスにてハルビン空港へ、正午過ぎエアロフロート・ロシア航空便で極東ロシアの町・ハバロフスクへ、16：00 到着後ホテルへ、しばらくの休憩後、近くの練習会場にて現地の混声合唱団と（合唱団の名前？）20～30歳代の若き女声7・8名と中高年の男声5名の編成。1時間の合唱レッスン。「アムール河の波」「満州の丘に立ちて」「ゴンドラの歌」・・・



聖ソフィア教会前にてバス1号車旅行団

「アムール河の波」は日本語とロシア語合同で、「満州の丘に立ちて」はロシアの合唱団が独自で4部合唱、「ゴンドラの歌」は日本語で日本の合唱団が歌う。

レッスン後、会場を変えて、ティーパーティで交歓。各テーブルでお互いの合唱団員が片言のロシア語と日本語で和やかな雰囲気での交歓のひとときを過ごし「カチューシャ」等のロシア民謡を一緒に歌いました。



ハバロフスクの若き混声合唱団



ティーパーティで懇親交流する団員メンバー

抑留体験を持ちハバロフスク在住20年の田中猛（たけし）さん（88歳）と夕食交歓会

田中さん自作のアコーディオン風の楽器(スピーロン)で数曲歌われる。彼の当地での音楽教師としての経歴とロシア人生徒へ「荒城の月」等の日本の歌曲を日本語で合唱指導し、成人した彼らと再会するなどの逸話を披露されました。（当時の生徒たちが「荒城の月」（2部合唱）を日本語で歌っている合唱風景をビデオ撮影したものを披露。）

彼のスピーロンの演奏をバックにして、ロシア民謡や日本の古い歌曲（「さくらさくら」「 Gondラの歌」「カチューシャの歌」「満州の丘に立ちて」・・・）を歌いました。（右写真はスピーロンで歌われる田中さん）

3日目：7月18日（土）ハバロフスクにて市内観光とシベリア抑留者の日本人墓地での慰霊鎮魂合唱 夜行列車シベリア鉄道でウラジオストークへ



・朝食後2台のバスでハバロフスク市内観光。

レーニン広場、ロシア教会を見学。

アムール河展望台へ。私たちの今回の旅行の交流合唱曲「アムール河の波」のご当地、中国黒竜江省との国境を画するアムール河（黒竜江）を観光船で1時間ほど下りました。天気も良く、川の流れはあくまで静かでゆったりとした感じ。水は茶色く不透明、ごみはないが汚れている感じ(中国側の環境保全の概念のない経済活動が原因で水質がよろしくなく問題となっている模様)。全長4,368km、対岸はかすかに見えるほど遠く広く（ハバロフスク付近では川幅1.5~2km）、中国東北部（満州）・シベリアロシア沿海州を含む広大な地域を流れる大河である。



広大な大河「アムール河」



アムール河での遊覧船を乗り終えて

午後より日本人墓地へ

・シベリアへ抑留され過酷な条件のもとで倒れ、ハバロフスクの地に眠る 315 人の日本人墓地の前で、鎮魂・慰霊のお花と千羽鶴を供え、日本とロシアの合唱団の合同合唱の献歌を行いました。田中猛さんとともに外務省ハバロフスク総領事と首席領事も墓参。藤後団長の弔辞のあと総領事から歓迎の挨拶を受けました。「アムール河の波」「満州の丘に立ちて」「 Gondラの歌」を合唱。現地のメディアや熊本テレビの派遣キャスター？も取材の模様。



シベリア抑留でこの地に眠る日本人墓地 日本人墓地の前で日本とロシアの合唱団が献歌 墓前にて藤後団長と日本総領事が弔辞・挨拶
No.514(3/6)

市内のレストランで夕食。ロシア料理（ドレッシングなしの新鮮な野菜サラダ・本格的なボルシチ・ミートの入ったピロシキ・素朴な味のライ麦黒パン付）が美味！（残念ながら写真がありません！）

夜行列車・9時発のシベリア鉄道に乗り、ウラジオストークへ。

モスクワ～ウラジオストークまで、ロシアの大陸を約9300km横断し、東端の不凍港ウラジオストークまで伸びるシベリア鉄道。世界一長い鉄道で2002年に全線電化完成。大きな列車の割には4人相部屋。幅の狭い2段ベッドの寝台車。下のベッドで寝る人は車輪の振動が腰に直に伝わる寝苦しい11時間の列車の旅となりました。



ハバロフスク駅にて 乗車前の混雑
ロシアの若い労働者が重いトランクを1個ずつ列車内へ



夕日に染まるシベリア鉄道・客車の昇降口と
プラットフォームの高さ(約1mの高低差)にご注目！

4日目：7月19日（日）朝8：00 ウラジオストーク駅到着、ホテルへ 午前中ウラジオストーク市内観光、午後から現地の2つの合唱団と合唱交流・コンサート

・落ち着いたホテルレストランでの本来の朝食をいただく。(ストロベリージャムつき食パン・コーヒー・スクランブルエッグ・ソーセージ、コクのあるロシアのヨーグルト)



ウラジオストークの港町



アルセニエフ博物館入口

・午前、バスにてウラジオストーク市内観光。(潜水艦博物館・アルセニエフ博物館・ルースキー島、旧日本人街等) 展望台から見たウラジオストークの港と町は大きくて、イスタンブールに似ているとのこと。

ウラジオストーク市の現状と歴史について説明を受けながら観光。ロシア東端の「不凍港」。日本とは日露戦争・シベリア出兵、そしてソ連軍の旧満州侵攻と日本兵士のシベリア抑留に関わる痛ましくも鎮魂すべき歴史を持つ都市。現在は人口68万人。産業は林業・自動車輸入業・漁業等。人材不足が問題。生活ぶりは如何に？

新潟市が対岸にあり、日本の中古車を輸入。トヨタとマツダの自動車工場が現地に建設され稼働中。昨日のハバロフスク、そして今日のウラジオストーク。街を歩く人々は日曜日でもあったせいか、若い夫婦と小さな子供連れの家族、モデルを思わせるような容姿端麗の若い女性、逞しい屈強な身体を持つ壮年の紳士たち・・・どこことなくヨーロッパの雰囲気漂わせている人たちがばかりが目につきました。

・午後から、現地ウラジオストークの2つの合唱団と合唱交流する。

まず最初に、藤後団長が団を代表して挨拶。今回の合唱交流訪問の目的・多くの犠牲者の方々の鎮魂・慰霊とともに平和友好の意義について語られました。

私たちは40名ほどで「アムール河の波」「ロシア民謡メドレー」「紫金草物語より「戦場へ」・「人間から」「平和の花紫金草」を熱唱し、“ブラボー！”と大きな賞賛の拍手で迎えられました。

参加いただいた当地の合唱団

(1)「ロシアの歌合唱団 (Chorus of Russian song)」

女性13名・男声4名で参加。赤いロシア民族衣装に身を包みロシア民謡を熱唱。レパートリーはロシア民謡、創立1984年。1999年以降市民コーラスとして約30名の団員。うち15名ほどがコンサートのメンバー。ウラジオストーク市や州の記念日の式典に出場、赤十字チャリティコンサートにボランティアで出演活動をしているとのこと。



(2)「ゴルリツァ (Gorlitsa) 合唱団」・・・キジバトの意でウクライナのフォークソンググループ。1979年創設。団員30名、コンサートメンバーは15～20名。今日は女性14名・男声5名。モスグリーンのような鮮やかな民族衣装で登場。フォークロア・フェスティバル等数々のイベントに出場、受賞している実力合唱団。日本の合唱団「白樺」の2013年ロシア合唱交流ツアーの際、ウラジオストークで交流した合唱団。



2つの合唱団は、それぞれの特徴ある合唱のうたごえと民族楽器を有効に使った音色で観客を魅了しました。特に「ゴルリツァ (Gorlitsa) 合唱団」の一人一人が大声を出しているがハモっている！耳をつんざくような大合唱には、身体の“でっかさ”とともに圧倒される大迫力でした。

最後に2つの合唱団と一緒に「モスクワ郊外の夕べ」「カチューシャ」の2曲をアコーディオン伴奏に合わせて、ロシア語と日本語で歌い交流し、大歓声の中で合唱交流は終了しました。



笑顔が絶えない日本の訪問団員



アコーディオンの演奏で交歓のダンスが始まり会場は爆笑



大声で歌うロシアの合唱団



「ロシアの歌合唱団」の名ソリストに聞き惚れる！

・市内のローカルレストランでの訪問団一行の夕食交流会もまた有意義なものとなりました。一人一人が自己紹介を行い、体力的に苦しいながらも楽しい旅の仲間として、健闘を分かちあい、また明日からの中国再入国の厳しい移動を控えて元気をもたらず楽しい会となりました。

・本格的なロシア料理に舌包み！

ビールで乾杯・あと結構な値段のするワインを注文する。野菜サラダ・濃厚な味のボルシチ・本場の紅鮭のムニエル風メインディッシュ（パプリカ・玉葱と共に炒め、卵を絡めた、味は適度な甘みと酸味の日本人好み）・ライ麦黒パン・コーヒー・食後のデザート（小さなケーキ）

5日目以降は次号「**昂 男声合唱団** ニュース No515」に続く